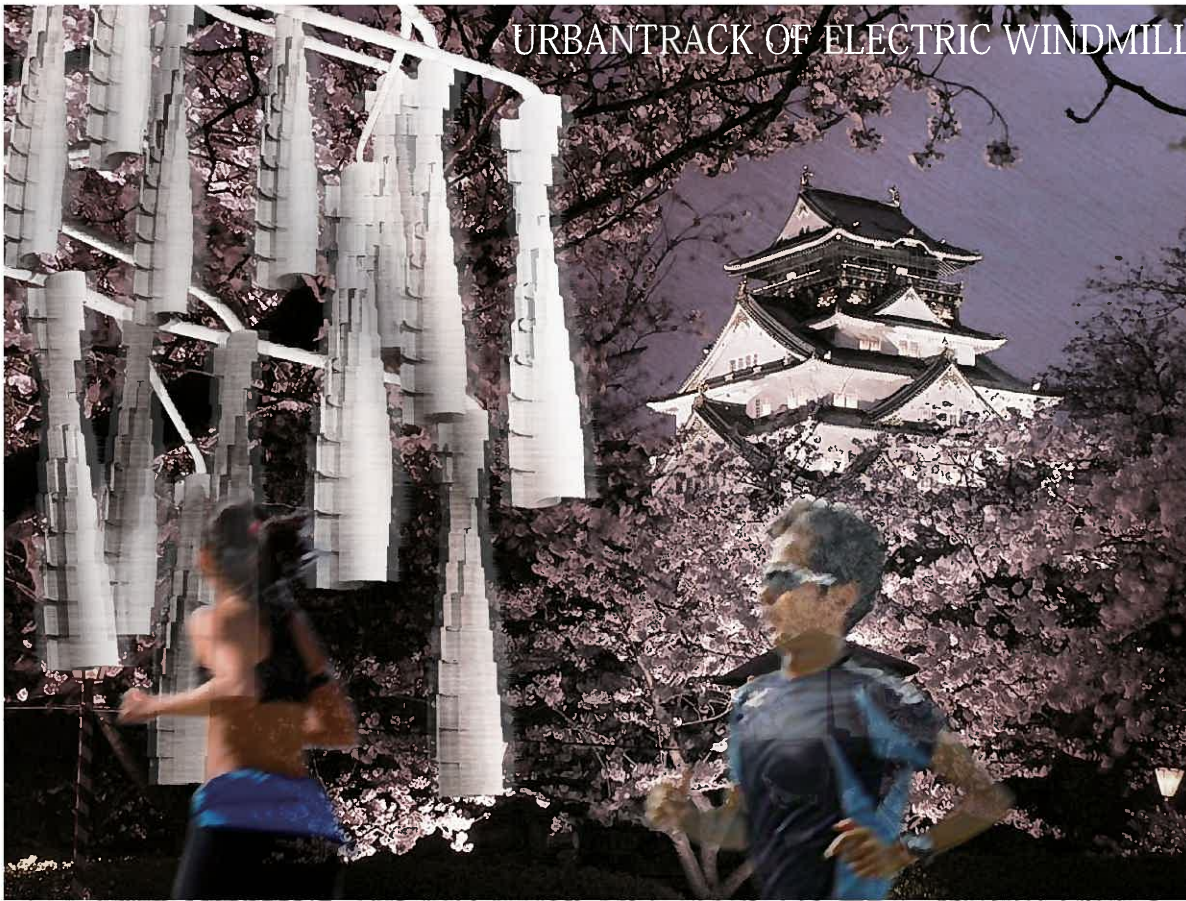


## URBANTRACK OF ELECTRIC WINDMILL



## DIAGRAM

風の圧力による回転で電気を生み出す。  
その電気は街灯の冷却装置や周辺の建物に供給される。

街灯自身や周囲の建物に降る雨から水を取り込む。  
雨水は街灯に蓄えられ、晴れの日に冷却装置として機能する。



## CONCEPT

ジョギングと都市の温暖化を考える時、街の中を広く使うジョギングに対しては局所的な提案ではなく大規模な提案もしくは分散的な提案が適している。

この提案は、街中に既にインフラとして存在している街灯に着目する。

街灯はその機能が必要とされない昼間はただ茫然と街中に立ち尽くしている。

そこで、街灯と風車の融合体を考える。

この風車は保水性の高い保水セラミックによりできており、自然の風やランナーによって生み出される風によりくるくるとまわる。

回るたびに電気を生み出すと同時にその表面から蒸発していく水の気化熱により周囲の気温を下げる働きもある。

水は街灯自身や周囲の建物に降る雨水を利用し、自身で発電した電気を周囲に分け与えることも可能である。

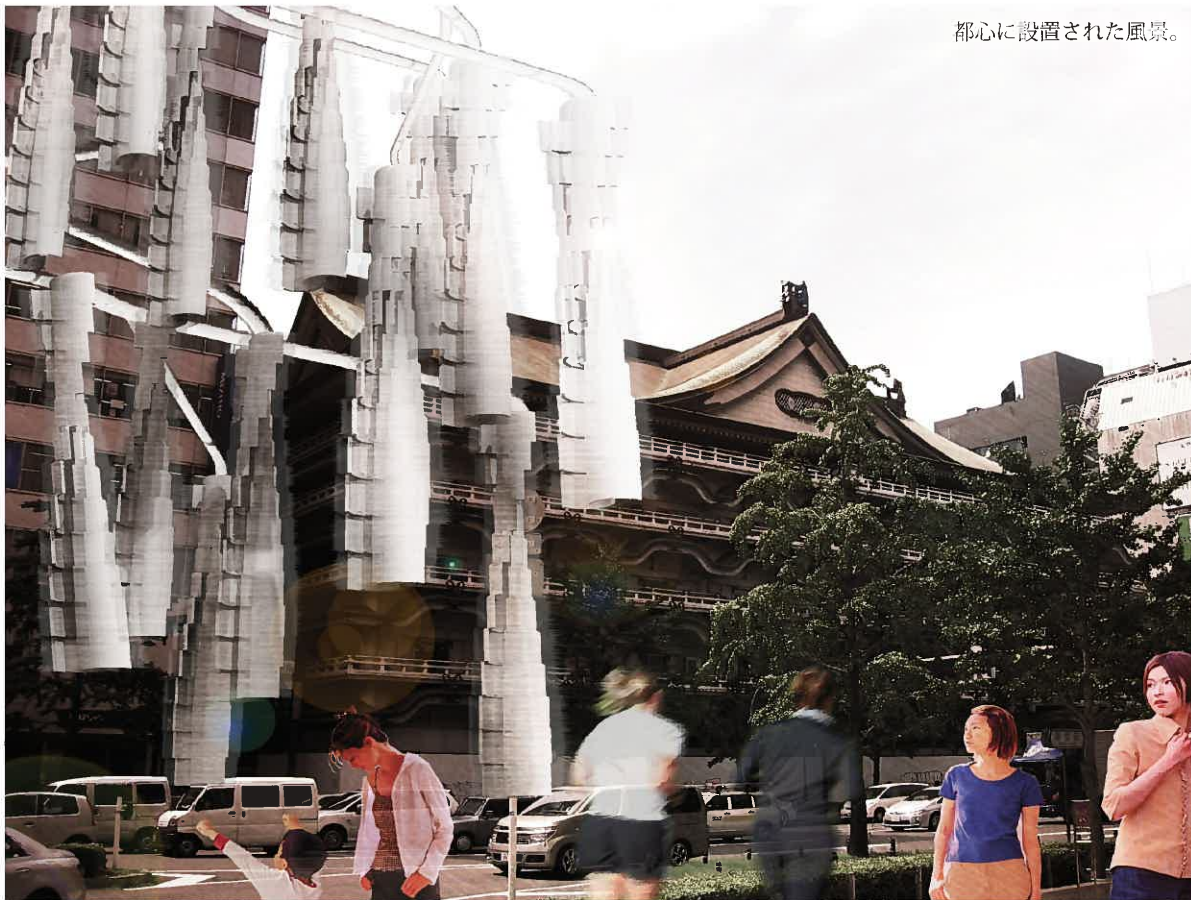
夜間には照明機能も保持しつつ、ランナーにとってコースの道標ともなる。

下記は大阪のランナーの主なジョギングコースである大阪城公園のジョギングコースと既存街灯の分布図であるが、街頭が存在する場所ならオフィス街でも住宅街でもどこにでも設置が可能である。

つまりこの街灯が存在する場所の周囲はどこでもトラックとなり、ランナーに走りやすい環境を提供する。







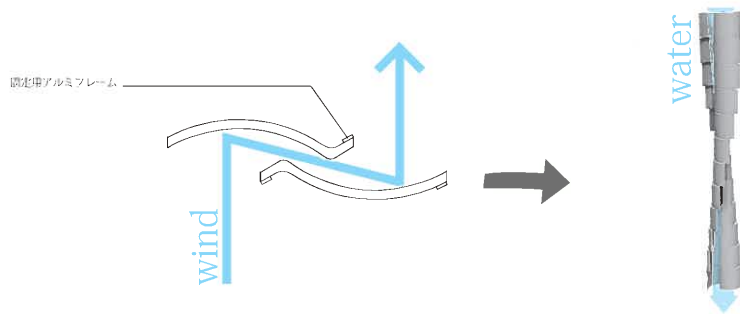
都心に設置された風景。



ランナーが生み出す風によってくるくとまわる風車。

## STRUCTURE

この風車は保水セラミック、アルミフレーム、給水パイプによって構成され軽量でありサボニウス構造によって弱い風でも回るようにできている。



サボニウス風車の原理を用い全方向からの風の抗力により回転する構造を作り出す

上端から水が流れ水を含んだ羽が回転により打ち水効果のように周囲の気温を下げる

